

新春

文芸

# 穴塚古墳群の人物埴輪



土浦市立博物館長

上高津貝塚ふるさと歴史の広場館長

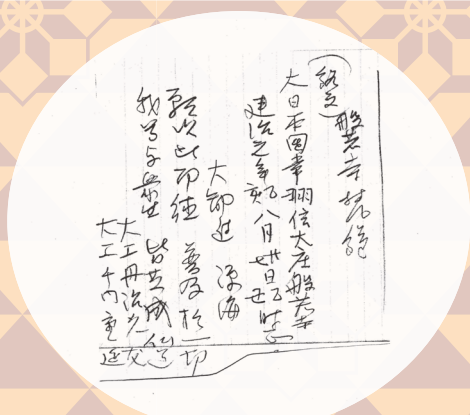
茨城大学名誉教授

茂木雅博

市民の皆さま 新年おめでとうございませう。

昨年は「上高津貝塚ふるさと歴史の広場」が整備され、考古資料館が開館して20周年を迎えることが出来ました。それを記念して第十四回特別展『上高津貝塚のころ—縄文後晩期 円熟の技と美—』を開催しました。期間中博古研究会と共催で中国から研究者をお招きして、霞ヶ浦沿岸と中国山東半島の貝塚について勉強会を開催しました。大変好評で市内は勿論県外からも多くの見学者がお見えになりました。皆さまの心暖かいご支援に感謝申し上げます。さて今回は、1963年8月から翌年3月にかけて、筑波研究学園都市建設に伴う道路（土浦学園線）敷地内の事前調査によって発見された人物埴輪についてご紹介させていただきます。

この人物埴輪は、穴塚大池を中心に前方後円墳3基、円墳等22基から構成された穴塚古墳群の六号墳から発見されたものです。発掘された古墳は一号墳、五号墳、六号墳の3基で、この埴輪が発見された六号墳は、古墳群の東端に位置していました。六号墳は前方部を北西に向ける全長23mの前方後円墳で、埴輪はくびれ部東側の周隴底から転落した状態で出土しました。



大場先生が当時、穴塚の般若寺を訪れて梵鐘の銘文をメモしたもの

その法量は高さ16センチ、首部の径6.5センチ、厚さ2センチで、装身具は右耳に耳飾りが貼り付けられ現存していましたが、左側は剥離して、その痕跡を留めているのみです。頭巾を被った人物埴輪の頭部で、髪を結った痕跡は認められません。製作は粘土紐を巻き上げ、頭巾部は板状に延した粘土で巻いています。二次的な調整は板状工具で縦位に削り、最終的には掌で撫でて仕上げられています。胎土(粘土)には小石を含み、多量の雲母片が認められます。両眼と口は鋭利な刃物で見事に切り抜かれ、鼻と眉毛は粘土を貼りつけて整形されています。顔全体は均整の整った造形美です。焼成は良好で、他に馬形埴輪、朝顔形埴輪、円筒埴輪等が発見されています。

調査当時は、現在の様に体制が整っていないなかった時代で、土浦市教育委員会は茨城県教育委員会の指導により、国学院大学教授大場磐雄博士に調査を依頼して実施されました。

発掘調査は大場先生の陣頭指揮のもと、土地所有者宅に調査本部が置かれて進められました。私は先生が逝去される前に、先生の調査記録の保管を託され、館長就任後その整理に時間を費やし、昨年夏で完了しました。その記録の中にこの調査のことが含まれており、この埴輪について短歌を残して居られたので紹介しておきます。

土浦行 四三・八・三十一、九・二、九・七、八

円墳二基、前方後円墳一基、円墳は円筒埴輪(形象埴輪も含む)をめぐらしたり、主体部不明  
前方後円墳は後円部の西側に造出様のものあり。

○千餘りことこの奥津城にねむり越し

夢おとろかし鎌の音する

埴輪の人形うつろなる目

○貴人に仕えし人の象ならむ

ただうつろなる目こそかなしき

○いつの代にいかなる人のこやしけむ

この丘の上の奥津城さびし

なお、この古墳群の出土品は調査終了後に土浦市に返還され、現在は上高津貝塚ふるさと歴史の広場に保管されています。

